

ボトムアップ型コミュニティ・スクールの実現に向けた地域学校協働活動の推進

基本情報

学校

さいたま市立浦和別所小学校

学校運営協議会

UBコミュニティ協議会

令和4年4月1日 設置

委員構成

地域学校協働活動推進員（学校地域連携コーディネーター）
幼稚園園長
育成会・民生主任児童委員・自治会
保護者・PTA関係者
児童センター・公民館館長
近隣中学校校長
地域有識者
協働活動本部運営委員
校長・教頭・教務主任
など 15名

会議回数

年間平均3回程度

地域学校協働活動推進員等数 ()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名（0名）

地域コーディネーター 1名（1名）

地域学校協働本部

すくさぽ浦和別所

背景・取組概要

学校・家庭・地域が連携し、顔が見える、気持ちのよい地域づくりを構築するため、子どもたちに関わる活動を担う諸団体や保護者、地域の方々で構成されたボランティア活動の充実を目指した。様々な立場で、地域学校協働活動に参画する大人と関わることで、自ら考え行動する「自立した子」の育成及び成熟した地域づくりを具現化する必要があった。

子どもだけではなく大人も自主的に行動し、地域学校協働活動に参画するボトムアップ型コミュニティ・スクールの実現を目指す。

工夫・ポイント・特徴的な取組

【学校運営協議会】

学校課題解決のためにどのような取組が必要かを熟議している。近年、登下校や公共におけるマナーの定着が課題であるため、保幼小が連携した子どもたちの安全意識向上のための取組について話し合いが行われた。①保護者への意識付けとして、新入学児童保護者説明会にて見守り活動の意義を伝える。②見守り活動を理解してもらう文書を、学校運営協議会、PTA、学校の連名で保護者へ配布。③学校安全教育推進に「保幼小の連携」という項目を入れた。④新入学児童の保護者の不安に応える「先輩パパママサロン」の開催⑤就学時健診等で入学前に知ってもらいたい学校のルールを伝える取組の実施の5項目を提案。①②③⑤は実施済。④については令和7年2月8日(土)に実施。



【地域学校協働活動】

全学年の授業に地域人材、地域資源を取り入れている。また、学校教育環境の充実を図る、防犯、読み聞かせ、図書整理、環境整備、校内掲示、学習支援ボランティアが自主運営で活動をしている。その中でも特別支援学級菜園のボランティア活動は、通年に渡る活動のため、児童とボランティアの方々が顔見知りとなり、登下校での見守り活動時や普段の生活の中での交流を深めることができた。更には、支援学級の子どもたちが地域の中の1人として、社会と関わる準備を可能にし、誰もが生きやすい地域づくりのスタートを切るために必要かつ有意義な活動となった。



【コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進】

学校運営協議会委員だけでは得ることができない地域課題の現状や、活動の情報を共有するため、地域学校協働活動本部の運営委員が学校運営協議会に参加し、地域学校協働活動の現状報告をした。また、年3回開催の学校運営協議会での熟議が机上論にならないよう本部に設置した運営委員会主催の保護者や地域の方々との交流を目的とした「すくさぽサロン」を年4回実施し、地域課題や協働活動に関する意見や情報を収集して、学校運営協議会の協議に反映するボトムアップ型コミュニティ・スクールへと前進した。

成果・効果

○地域連携授業が充実。全学年の授業に地域講師や協働活動ボランティアが関わることができた。地域からの提案で実施した授業もあり、地域に開かれた教育活動が実現した。

○**地域学校協働活動ボランティア登録者が増え、保護者や地域の方々の想いが学校や子どもたちに伝わる機会が増えた。**

R 4 ボランティア登録者数	123人
活動参加者延べ数	539人
活動延べ回数	271回

R 5 ボランティア登録者数	191人
活動参加者延べ数	855人
活動延べ回数	294回

地域と協働した持続可能な食育活動の実現を目指して～地域の資源を生かした米づくりをとおして～

基本情報

学校

さいたま市立春野小学校

学校運営協議会

春野小学校学校運営協議会

令和3年4月1日 設置

委員構成

学校地域連携コーディネーター
P T A 代表
保護者代表
社会福祉協議会会長
地域資源保全会代表
自治会長
主任児童員
児童センター館長
など 11名

会議回数

年間平均 3 回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員0名 (0名)

地域コーディネーター 1名 (1名)

地域学校協働本部

春野小学校スクールサポートネットワーク

背景・取組概要

本校は今年で創立 32 年目を迎える比較的新しい学校である。また、さいたま市内の学校でありながら都市と自然が融合した自然に恵まれた環境である。一方で、児童数は年々減少し、加えて新型コロナウイルス感染症の影響もあり、学校、地域、家庭とのつながりが薄くなっていることが課題となっていた。そこで、2年前の 30 周年記念の年に学校が核となり、地域、家庭とのつながりをより一層深めようという目的のもと地元の資源、人材を生かした「米づくり」の取組を開始した。

→地域の資源を生かした米づくりをとおして、学校・家庭・地域がより一層協働する地域づくりを目指す。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆学校運営協議会

- ・学校運営協議会における熟議と組織力を活用し、地域の資源を生かした米づくりのために幅広く保護者サポーターや地域の人材を確保した。また、学校運営協議会の委員でもある地域資源保全会代表と連携して学区内に、「春野小田んば」を確保し持続可能な活動体制を整えた。
- ・学校運営協議会に児童会代表や米づくりを体験した児童も参加し、地域の方々と米づくり活動をした感想や感謝の気持ちを伝えることで、**取組の成果を共有**できるようにした。



◆地域学校協働活動

- ・「地元の新米を食べよう週間」として、春野小の学校給食において1週間、地域の資源を生かした米づくりで収穫した米を提供した。その際、**地域の方、保護者代表を招き会食**することで、学校、家庭、地域が地元である春野に、より一層愛着がもてるようにした。
- ・米づくりを体験した子どもたちが、P T A 代表や地域の方々にインタビューした内容を**地元のラジオ放送で流したり** **校内放送で紹介**したりすることで、より地域とのつながりが深まるようにした。



◆コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施

- ・学校が核となり地域、家庭と連携した活動を企画立案することで、**学校・家庭・地域がより一層協働できる持続可能な活動**が展開できている。
- ・校長、教頭、学校地域連携コーディネーターを含む学校運営協議会委員が「春野小田んば」の整備やクリーン活動に参加することで、学校運営協議会がより一層地域に根差した組織となった。



成果・効果

- ◆学校と地域がより身近になり、夏まつり等の行事において、**より一層、学校と地域が協働**するようになった。
- ◆学校、地域、家庭の連携により、**学校行事におけるボランティア、サポーターによる協力が増え、教育活動がより充実**したものとなっている。



心と心の通い合う学校を地域とともに創る

基本情報

学校

さいたま市立岸中学校

学校運営協議会

岸中学校学校運営協議会

令和3年4月1日 設置

委員構成

関係行政機関の職員
自治協力会代表
地域住民
本校元校長
保護者・P T A 関係者
地域コーディネーター
大学教員

など 15名

会議回数

年間平均 3 回程度

地域学校協働活動推進員等数
()は内、学校運営協議会委員数

地域学校協働活動推進員 0 名 (0 名)

地域コーディネーター 1名 (1名)

地域学校協働本部

岸中学校スクールサポートネットワーク

背景・取組概要

心と心の通い合う教育活動を展開し、誰一人取り残すことなく 100 年人生 Well-being に輝き続ける生徒の育成を目指した。そのために生徒が多様な大人とやりとりする機会を増やすことで、
生徒が自分で課題を発見し、深く考え、主体的に行動できるようにする必要がある。

工夫・ポイント・特徴的な取組

◆生徒主体の駅で行うあいさつ運動

日本一のあいさつを地域に届けることで地域を元気にし、地域の皆様に感謝の気持ちを伝えるために実施している。あいさつで地域の皆様を笑顔にすることで「いじめの撲滅」にもつながると考え、あいさつ運動の実施を**生徒会の子どもたちが、学校運営協議会で提案**した。



◆地域の人材を生かした学校運営(KOV)

本校では生徒たちの学習活動の支援体制を整えるために、今年度から**地域の方を「岸中学校応援ボランティア (KOV) 」として独自に依頼**し、様々な場面で生徒のサポートをしていただいている。その際、**地域連携コーディネーターが核となり募集**している。



◆コミュニティ・スクールを活用した学習環境整備(Solaフロア)

本格的に運用が始まった校内教育支援センター**(Solaるーむ)を本校では複数設置し、Solaフロアとして開設している。**これにより、生徒が個に応じたスペースを選択できるようにした。Solaフロアについては、**学校運営協議会で開設・運営に係る課題等について協議**し、役割分担を行った。

成果・効果

- ◆学校（生徒）から地域に提案した内容が実現するなど、**学校と地域がこれまで以上に協働**するようになった。
- ◆あいさつ運動は、R5：35名→R6：79名まで参加者が増え、**小・中・高・大学の多くの児童・生徒及び地域の方に参加**していただいた。
- ◆岸中学校応援ボランティア（KOV）は、**今年度4名の方に登録**をいただき、Solaフロアの支援や生徒が参加できる地域のボランティア活動のサポートをしていただいた。
- ◆Solaフロアに**Solaるーむを3部屋開設**し、気持ちを落ち着かせるスペース、一人ひとりが自分のペースで学習に取り組めるスペース、少人数でコミュニケーションを図るためのスペース等、**生徒がスペースを選択**できるようにした。